

週刊 座、グレート・リーダーズ通信

『インド私録-思い切り取り組んだこの50年-』No.9

今週のキーワード! 演説集

ジャワハルラル・ネルーの死後発売された演説集のレコード『ジャワハルラル・ネルー』には10編の演説が収録されています。「座、グレート・リーダーズ」では武藤氏からそのレコードをお借りし、氏が特に注目する演説4編のさわりを番組の最後で紹介しました。『インド私録』でも書かれておりますように、このレコードは日本では大変珍しい資料であったために、大阪外語大学の溝上教授が教材用にコピーを作成し、同大に收藏されました。現在これらの演説を全て聴くにはコピーを継承したはずの大阪大学で探すほかないと思われましたが、通信編集部で調べてみたところ、このレコードは現在、印RPGグループ傘下のエンターテインメント部門のサレガマ社(Saregama India)のヒストリカル・レコーディングのコーナーか

らオンラインで購入できることが分かりました。また、ここではインド独立の父、マハトマ・ガンディー、独立運動家のスバス・チャンドラ・ボース、インディラ・ガンディーなどの演説集もあり、いずれも試聴することができます。ご興味のある方は下記のサイトへどうぞ↓

<http://www.hamaracd.com/hcdindia/asp/HistoricalRecordings.asp>

なお、『ジャワハルラル・ネルー』を発売したグラモフォン社は1946年に英国EMIのインド子会社として設立されました。1985年に現在の印RPGグループが買収、2000年に社名をグラマフォンから現在のサレガマに変更しています。

ところで、「ジャワハルラル・ネルー」のジャケットの裏側には、HMV(His Master's Voice)ブランドで知られる、亡き主の声を蓄音機から聴くフォックスステリアのマークが印

刷されていて、このレコードをさらに趣のあるものとしています。演説自体はダウンロードして購入できますが、このようなことを思って聴けるのは、ジャケットのあるレコードならではのことでしょう。

名誉博士授与で早慶戦

第9回放送にあるように、ネルー首相は1957年10月の来日の際、早稲田大学と慶応義塾大学からそれぞれ名誉博士学位を贈られ、両校で講演を行っています。早稲田大学では、WASEDA ONLINEの「大隈講堂物語-早稲田を訪れた人々」によれば、『明日を創るもの』というタイトルで30分講演したとのこと。聴きにきた学生は1万人以上、講堂から人が溢れたと書かれています。また、故橋本龍太郎元総理が2000年の訪印の際、外交最高顧問の演説「20世紀の教訓と21世紀ビジョン」(外務省・演説資料)の中で、ネルー首相が慶応大学の図書館の2階のバルコニーから「ナショナリズムと世界ノヒューマニズムとの調和を訴える」内容の演説を行ったと回想しています。いずれも当時の日本のネルー首相に対する期待や支持の高さが伺えます。

ラジオ・ニュームンバイか
らのお知らせ



第11回放送は8月10日です。

右 1965年にグラモフォン社から発売されたネルーの演説集LPレコード、「ジャワハルラル・ネルー」(製品番号ECLP2302)。タイトルの上には“The man who, with all his mind and heart, loved India and the Indian people. They in turn, were indulgent to him and gave him of their love most abundantly and extravagantly (全身全霊をかけてインドとインド国民を愛した。国民もまた彼に惜しめない愛情でそれに応えた)”と書かれている。(武藤友治氏所蔵)

